



雪景色のポンプ室。季節に関係なく、製鐵所の鋼材生産に必要な工業用水の約6割を送水。



秋が深まると、建物を覆うつたが紅葉し、赤煉瓦とともに季節の彩りをまといます。



土日祝日(年末年始除く)の10時～16時(雨天時変更有)、観光ガイドが解説します。

ポンプ室のすごい所

01

ポンプ室のシンボル、丸窓

遠賀川水源地ポンプ室は、2棟が連なった構造で、北側のポンプ室は丸い窓、南側のボイラー室は半円型の窓が印象的。

イギリス積みの赤煉瓦

煉瓦造りのポンプ室。煉瓦の長い部分と短い部分を交互に段違いに積む「イギリス積み」と呼ばれる強度の高い積み方で建てられています。

02



現在の電気ポンプ

04

遠賀川から取水した水を約12km離れた製鐵所まで送っています。1日に送る水の量は約12万t(25mプールの約360杯分)とされています。

めずらしい灰白色の「鉾澤煉瓦」

鉾澤煉瓦とは、鉄を作る際に出る滓を粉碎し、生石灰・水を加えて成形した煉瓦です。柱や窓など部分的に使用され、デザインのアクセントになるとともに、赤煉瓦よりも吸音性に優れているという特徴もあります。

03



詳しくはコチラ



市観光HP

遠賀川水源地ポンプ室
インフォメーションセンター
(中間市地域交流センター内)

① 中間市大字垣生 660-1

☎ 093-245-4665 ② 9:00 - 18:00

🗓 火曜日、年末年始

※ 火曜日が祝日の場合はその翌日



世界文化遺産 明治日本の産業革命遺産

遠賀川水源地ポンプ室

100年以上経った
今もお、
鉄づくりに
必要な水を
送り続ける――



非公開施設、眺望スペースから外観の見学可(建物所在地：中間市土手ノ内一丁目3-1)

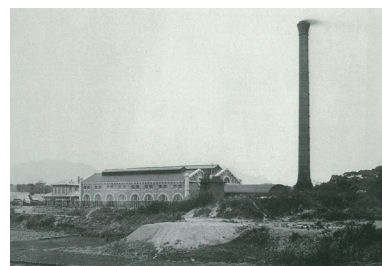
遠賀川の水が 近代製鉄を支えた

幕末から明治にかけ、日本は西洋以外の地域で初めて、かつ短期間に工業化を果たし、飛躍的な発展を成し遂げました。

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、その発展を示す産業遺産群として、2015年に世界文化遺産に登録。中間市に所在する「遠賀川水源地ポンプ室」は「明治日本の産業革命遺産」の九州各地、山口、静岡、岩手の8県11市にまたがる23の構成資産の一つです。

官営八幡製鐵所が生産量の倍増を目指す中、工業用水が大量に必要となったことから、遠賀川から製鐵所へ送水する施設として1910年に操業を開始。ポンプ室の北側の棟には、送水のための蒸気ポンプ、南側の棟には動力源となるボイラーが設置されました。

ポンプ室内部の送水設備の動力は、1950年代に蒸気から電気へ移り変わりましたが、100年以上経った今も役割は変わることなく、現役で稼働しています。



建設当時は約50mもの高さの煙突が設置されていました。



動力源のボイラーは、建設当時圧倒的シェアを占めていたバブcock&ウィルコックス社製。



建設当時は、工業用水の安定送水に世界的実績のあるデビー社製蒸気ポンプを導入。